

令和4年度

第3回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：令和5年2月3日（金）午後2時～3時30分

場 所：鳥取市役所 本庁舎7階 議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、田中節哉委員、青木博之委員、谷田一富委員、
赤嶋三千男委員、甲田紫乃委員、山本武志委員、綱本信治委員、
升田弘法委員、太田章太郎委員（オンライン）、中野ゆかり委員、
坂本朋子委員、中村 暁委員、贅川 清委員
欠席 石塚康裕委員、川夏博志委員、飯田浩一委員、小坂祐司委員、
秋山光行委員
オブザーバー 鳥取県東部地域振興事務所 山下大治 副所長
兵庫県但馬県民局総務企画室 中山友美 室長（オンライン）
事務局 鳥取市企画推進部次長兼政策企画課長 戸田昭弘、
同課課長補佐 平田政志、同課係長 古網有希、同課 岡本茉莉絵
岩美町企画財政課 課長補佐 中島公成、若桜町企画政策課長 谷本剛
智頭町企画課長 酒本和昌、八頭町企画課長 岡崎好美
香美町企画課長 川戸英明、新温泉町企画課係長 谷口修一
説明者 鳥取市市民生活部地域振興課 課長補佐 山名常裕
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊大輔
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課長 平井宏和
鳥取市農林水産部農政企画課長 山川泰成
鳥取市都市整備部交通政策課長 小森毅彦

1 開会

2 あいさつ

下田委員長あいさつ

3 議事

- (1) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョン（素案）のパブリックコメント実施
結果について＜事務局説明＞ ……資料1

（資料1について事務局説明）

○主な意見・質問等

<委員>

パブリックコメントの提出件数は2人というの少ないと思いますが、これを増やす工夫というのはないでしょうか。ある程度、10人ぐらいは提出して、意見をもらった方がいいと思います。

<事務局>

今回、2名の方から御意見をいただきました。広報にあたっては、各町にも御協力をいただきましたし、ホームページ等での広報等もさせていただきました。窓口での資料設置についても、各市町の本庁舎はもちろん支所にも設置をさせていただいたところですが、結果的に2名の方の御提出となりました。

第2期ビジョンのパブリックコメントは終了させていただいておりますが、5年後の第3期ビジョンを策定する際には、より多くの御意見をいただけるように、効果的な広報の取組を考えていきたいと思っております。

<委員>

各市町の議会議員の方々には、パブリックコメントの実施についてお知らせされたのでしょうか。

<事務局>

12月の定例会の際にご説明を申し上げました。町によって、御説明を申し上げるタイミングは、ちょっとずれてしまっていますが、各議会への説明というのはさせていただいているところです。

また、2月から3月にかけて開催予定の議会においても、最終案について御説明を申し上げたいと考えております。

(2) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョン(案)について<事務局説明>

・・・資料2、資料2-1、当日配布資料1、当日配布資料2

(資料2、資料2-1、当日配布資料1、当日配布資料2について事務局説明)

○主な意見・質問等

<委員>

資料2-1の38ページに「救命救急センター」とありますが、同じページに「救急救命センター」という記載があります。正しいのは、「救命救急センター」だと思いますが、どうでしょうか。

<事務局>

大変失礼いたしました。「救命救急センター」が正しいということで確認をとりましたので、修正をさせていただきます。

<委員>

資料2-1の43ページの大学の学生数が記載されています。学生数が1人という学科がありますが、本当でしょうか。

<事務局>

こちらの情報につきましては、各大学のホームページより、学生数や学科名等を頂戴しております。最終案までに、再度ホームページの方確認をさせていただきたいと思っております。

<委員>

資料2-1の44ページに、高校が記載されていますが、湖山にクラーク国際記念高校があると思いますが、高校に加えるべきではないでしょうか。

<事務局>

そちらにつきましては、当日配布資料1の8番をご覧ください。クラーク記念国際高等学校については、分類上、専修学校に含まれるということを確認いたしました。鳥取県にも確認いたしました。44ページにあります専修学校10校の中に、クラークさんも含まれております。

<委員>

資料2-1の45ページに研究機関・産業支援機関とありますが、鳥取市歴史博物館と鳥取市埋蔵文化財センターを入れるべきだと思います。歴史博物館の方は、県立博物館での講演会でも研究発表しております。

<事務局>

事務局で整理いたしまして、必要に応じて記載をさせていただければと思います。御意見ありがとうございます。

<委員>

資料2-1の59ページの圏域全体の生活関連機能サービスの向上ですが、地域のバスに関して、とても不安を抱いております。

バスの運転手さんのなり手が無いというお話もありますし、地域のバスが廃止される予定もあります。そういう中で、地域のバスに対する満足度を基本目標に掲げていますが、具体的にどの事業が該当するのか教えてください。また、運転手さんの確保についても、公共交通の手段の核となることなので、どうにか事業化できないのかと思います。考え方をお聞かせください。

<説明者：鳥取市交通政策課長>

御指摘の通り、バスのみならずタクシーもですが、運転手不足が非常に深刻化しております。それに伴って、バス路線の廃止・減便が続いている状況です。

この運転手不足、人員確保というのが、非常に重要な施策になっております。単独の市町での運転手の確保・育成は非常に難しいのですが、鳥取県と県東部の市町、商工会議所さんとも一緒になり、運転手の確保・育成の取組を、すでに始めております。

具体的には、移住施策と一緒にやりまして、県外からの移住のPRの際に、すでに運転手の資格を持っておられる方の移住を促進したり、あるいは鳥取に移住された後に、資格を取れるような支援制度にも取り組んでいるところです。連携中枢都市圏ビジョンの取組としては掲載しておりませんが、すでに鳥取県、商工会議所、1市4町で一緒になって取組を進めている状況です。

<委員>

鳥取県も市も、運転手の不足については、重々考えていただいております。免許普通免許から大型二種免許を取る際にも補助をしていただいております。今は、普通免許を取って3年経たないと大型二種の免許が取れなかったりするんですけど、それも大分緩和されて、ある程度1年、

2年で取れるような政策も考えられておられるようです。最近の若い人の車離れということが聞かれますが、まだまだ車社会ですので、何とか魅力ある事業として、会社としてやっていかないといけないと考えております。

それと、路線バスが維持できない場合、共助交通という運行形態でやっていただいております。以前でしたら、共助交通はバスが走っている路線までというようなこともありましたが、地域によっては、病院やスーパーの近くまで行って欲しいという依頼もあり、そういう依頼にもこたえているところではあります。

何とか路線バスの維持をしていきたいですが、共助交通の支援をしていただいで、それによってバスの運転者を確保していくという両方の施策で維持していきたいと思っております。

<委員>

資料2-1の74ページのSDGsのアイコンについてですが、大学の事業の特徴としては大学や経済団体等と連携し地域課題の解決に取り組むということにあると思っておりますので、4番のほかに17番のパートナーシップを追加されるのはいかがかと思っております。大学が教育をするのは当然なので、特徴ということになると17番も入ると思っております。

<事務局>

御意見ありがとうございます。御意見のとおり、17番のアイコンも追加するという事で検討していきたいと思っております。

<委員>

資料2-1の63ページのNo.6の森林保全推進事業について、健全な森づくりを推進するとなっておりますけれども、具体的にはどうでしょうか。主に針葉樹ばかり植えている感じがするのですが、針葉樹は、動物のえさにならないから、熊や猿が町の方に出てくるということもあると思っております。どういう森林づくりをされる予定でしょうか。

<事務局>

手元の資料では、具体的な木の種類というところまでは把握をしておりますが、森林保全推進事業につきましては、各市町の方で実施をしております間伐の促進であるとか竹林の間伐と、あるいは作業道路の整備等を事業内容としております。

<委員>

前回の会議で、温泉施設の調査というお話が出たのですが、圏域の主な都市機能の集積状況の中には、温泉施設の名称や状況は入らないということでしょうか。可能であれば、そういうような概要をこの資料の中には載せられないのでしょうか。

<事務局>

現在、このビジョン案には、圏域の都市機能の集積状況ということで、医療や教育機関であるとかそういったところの状況を記載しております。

前回の会議では、不登校児童への対応に関するものと温泉の調査に関するものということで御意見を頂戴しました。不登校児童対策については、鳥取市の教育委員会と各町の教育委員会で、現在の取組の整理であるとか、共通でやっていけることがないだろうかというところの課題の整理をさせていただいているところではあります。まだ具体的な事業の検討というところには至ってお

りませんが、また今後検討を進める中で、必要に応じて事業の方を考えていきたいと考えております。

もう一つ、温泉施設の調査の件ですが、こちらは、DMO 麒麟のまち観光局さんの方と、麒麟のまち圏域の観光の施策を検討する中で、そういったことの調査も含めて今後やっていきたいと思います。話をさせていただいております。

そういった温泉施設もビジョンに載せられないだろうかという御意見につきましては、ビジョンの策定期限もありますので、可能かどうか検討をさせていただきたいと思っております。

<委員>

資料2-1の65ページの「特産品生産促進支援事業」についてですが、今、小麦がものすごく高くなっています。鳥取県の大山付近では小麦を生産していたようですが、鳥取県東部では小麦の生産を考えたことはないでしょうか。

<説明者：鳥取市農政企画課長>

鳥取県内では、大山の方や、船岡のあたりでも少し作ってらっしゃるのでしょうか、小麦の生産をされているようですが、大々的には、小麦に取り組んでいらっしゃるという地域はございません。特に、県東部につきましては、まだまだ米中心ということでございまして、JAの方も、小麦の方への生産のシフトというようなところまでは、まだ及んでいないというところです。

これから市場のニーズ等も変わってくるということもあると思っておりますので、これからそういった作物の転換ということも、徐々にではありますが増えていくのかなと考えているところです。

<委員長>

細かい事業については、今後、それぞれの市町の中で進めて行かれる部分があると思っておりますので、ひとまず、ビジョン案としましては、この懇談会の中ではこれでよろしいでしょうか。

今日出された意見は、可能な限り反映していただくということで、一旦はこの案で了承するというので、委員の皆さんよろしいですか。

(異議なし)

<オブザーバー：鳥取県東部地域振興事務所 副所長>

いろいろな分野で、かつ、麒麟のまち圏域という広いエリアでまとまっていくには、時間もかかるのかなと思います。こういったことは、地元の声や、ビジョンという形で拾いながら進めていくのは大切なことだということで、地道な活動になります。このビジョンを進めていただければと思います。

鳥取県としても、何かお手伝いができるようなことがあれば、検討してみたいと思っておりますので、引き続き、こういった場に呼んでいただければと思います。

<オブザーバー：兵庫県但馬県民局総務企画室長>

目標数値にはいつも人数がある中で、今回、観光消費額を目標数値に入れられたということに興味深く見えています。

但馬は昭和の時代から人口が減少し続ける状態で、それを増やすというのは、現実にはできていません。全国的に見ましても、人口は確実に減っていくという中で、一番大きな指標である人口だけではなくて消費額というところに目標を持ってこられて、違う視点から活性化を進めていこうというのは、すごく参考になるところだと思っています。

このコロナ禍で、いろんな環境が変わりました。ここからの世の中というのは、数だけではなく違う視点でいろいろと物事をはかっていくような、そんな転換が出てくるのではないかと思います。このビジョンの毎年の検討においても、みんなで新しい指標を考える中で、出てくるのではないかと思いますので、出てきた意見を参考にさせていただきたいと思います。今回のビジョンが、着実に活性化に向かって進んでいけば、良いものになると思います。

4 その他

<委員>

但馬の車のナンバーを「但馬ナンバー」にできないでしょうか。

<オブザーバー：兵庫県但馬県民局総務企画室長>

そういったお話は以前より出ておりますが、ある程度まとまった数が必要で、市町や地域の皆様の協力がないと実現しないという中で、そういったところまでの盛り上がりはないので、その方向には動いてないと認識しております。

5 閉会（事務局）